

JASIS

NEWS

No. 50

2012/8/27

日本インテリア学会会報

■「インテリア学」とは何か

学会長 直井英雄（東京理科大学）

本学会は、いうまでもなく「インテリア学」を標榜するわが国唯一の会員組織です。このことは、私が会長に選任された折にも申し上げたことですが、それは、この組織のアイデンティティとそこから生まれるミッションを、まず再確認しようとしたかったからにほかなりません。

しかし、それにしても、いったい「インテリア学」とは何なのでしょう。あまりに当たり前すぎて、まともに考えるのも馬鹿らしいような間かもしれません。私自身、長年にわたって自問自答を繰り返してきたのですが、また、これまで何度かこの学会の中でも議論したような気もするのですが、どうもまだすっきりとした理解には到達しているような気がしません。

インテリア学会の英文表記Japan Society for Interior Studiesにあるような「インテリアに関する学問」という定義は、もちろんそれはそれでいいのですが、私がほしいのは、そういう外形的な定義ではありません。もっとその中身、実質についての理解です。誰もが納得する完璧な定義を作るなどということは到底無理にしても、少なくとも、大方がうなずく共通理解なら、なんとか得られるのではないかと思います。

そこで、以下、私が日ごろぼんやりと考えていることを思い出しながら、この議論の糸口になるような質問項目をメモ風書き連ねてみました。時間と気持ちの余裕のあるときに議論しませんか。

- ・インテリアの分野において、「学」と「実務」とはどのような関係にあると考えるべきか。実情として、意味のある関係が持っていると見えるか。
- ・インテリア分野の諸団体（職能団体、業界団体など）

のなかで、「インテリア学会」はどのような位置に立ち、どのような役割を果たすべきか。

- ・「インテリア学」と「建築学」とは、どのような関係にあると捉えるべきか。「建築学」ではカバーできない「インテリア学」独自の領域とは何か。
- ・「インテリア学」において、「学」と「研究」の違いをどう考えるか。

インテリア関係の教育機関に対して、「インテリア学会」の担うべき役割はなにか。

■2012年度総会について

上野義雪（千葉工業大学）

平成24年度日本インテリア学会総会が6月16日（土）、千葉工業大学において、午前中に理事・評議員会、午後から総会、そしてシンポジウム、懇親会が開催された。理事・評議員会並びに総会の内容については、議事録をご覧ください。

昨年度の総会で特別部会として設置された東日本大震災課題検討部会が主催する「東日本大震災の被災への取り組みー暮らしとインテリアの視点からー」をテーマにシンポジウムが、山田智穂代表の司会で行われた。パネリスト並びにテーマは、以下の通りである。鈴木敏彦氏（工学院大学「避難所に対する取り組みを中心に初期の支援について」、西出和彦氏（東京大学）「仮設住宅と仮設団地・中心施設への取り組みについて」、秋山延江氏（日本フリーランスインテリアコーディネーター協会）「インテリアエレメントを中心とする支援活動について」。

懇親会は、直井会長のご挨拶により開幕した。昨年開

催された広島大会の懇親会から半年後の再会に花が咲き、懇親のひと時を過ごした。10月27・28日に開催の学会仙台大会の再会を願って幕を閉じた。



総 会



シンポジウム



懇親会

■第24回インテリア学会大会へのお誘い

大会長 野崎淳夫（東北文化学園大学）

○大会概要についての紹介

開 催 地 東北文化学園大学

（宮城県仙台市青葉区国見6-45-1）

日 程 2012年10月27日（土）見学会、懇親会
10月28日（日）研究発表、講演会、
理事会、卒業作品展

参 加 費 正会員 2,000円 準会員 1,000円
会員外 4,000円

発表登録料 正会員・準会員 無料
会員外 3,000円

梗概提出締切 9月21日（金）17:00
（発表申込用紙も同日締切）

梗概提出先 千葉工業大学工学部デザイン科学科
上野研究室気付
日本インテリア学会第24回大会梗概原稿応募係
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

■平成24年度運営委員会だより

□総務委員会

委員長 上野義雪（千葉工業大学）

事務局よりを参照。

□広報委員会

委員長 湯本長伯（九州大学大学院）

1) 事務ホームページの更新を行った。皆様の情報提供を引き続きお願いします。最近少しずつ、支部・部会・研究会等についても掲載情報を戴き、アップデートの循環が出来かけていると思われます。事務HPのURLは、下記です。

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/>

2) 広報委員会では、インテリア学会メールニュースの発行を続けています（現在41号）。メールアドレス登録者は175名で、過去のニュースはホームページからすべて見るができます。皆様の一層のアドレス登録を、お願い致します。<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/mailnews.html>

3) 会報は、昨年の大会後・4月号から大変遅れてしまい、まことに申し訳ありません。過去の会報も、ホームページから見ることができます。ご活用下さい。
<http://design.kyushu-u.ac.jp/~ymtlab/JASIS/50.pdf>

4) 広報委員会は、以下のメンバーで活動しております。
また広報委員は7名のみで、今もかなり手薄な状態ですので、皆様のご協力をお願い致します。広報委員長：湯本長伯〔九州大学大学院・教授、九州支部長〕／編集委員：片山勢津子〔京都女子大学・教授、近畿支部〕、平井康之〔九州大学大学院・准教授、九州支部〕、平田圭子〔広島工業大学・准教授、中国支部〕、松田奈緒子〔帝塚山大学・大阪産業大学・京都光華女子大学非常勤講師、近畿支部〕、若井正一〔日本大学工学部・教授、東北支部長〕、渡辺秀俊〔文化女子大学・教授、関東支部〕。今号の編集委員長は片山委員で、松田委員と担当しておられます。

またHP・メールニュース編集委員長：湯本長伯〔前掲〕、広報担当総務委員：白石光昭〔千葉工業大学・准教授、関東支部〕です。特に渡辺委員・白石委員の任期は長期に渡っており、新しく参加して下さる方をいつも歓迎しております。どうぞよろしく、お願い申し上げます。

5) 広報委員会へのご連絡は、下記までお送り下さい。
interior@design.kyushu-u.ac.jp
または JASISeditor@yahooogroups.jp

□国際委員会

委員長 加藤 力 (宝塚大学大学院)

今回はありません。

□論文審査委員会

委員長 松本直司 (名古屋工業大学)

日本インテリア学会論文集は、本年度は23号になります。応募締切りは例年の通り11月30日です。ふるって応募頂きますようお願いいたします。論文集の応募時期を早めて、大学の学位審査の日程と整合させて欲しいとの要望をちらほら聞いております。学会の研究活動を活性化していくためにも、今後の課題であります。

論文審査委員会は現在AIDIAの論文審査にあたっております。本年は7月10日に応募を締切りになりましたが、例年より少し応募が少なくなっております。審査後に採用論文を決定し8月末に中国の事務局に送る手順です。本年は、ジャーナルが発行され次第、執筆者に論文集が届くように中国との連携をとってまいります。執筆者の方におかれましては、次年度も同様な時期に募集が行われると考えられますので、今からご準備頂き、こちらもふるって応募頂きますようお願いいたします。

■平成24年度支部だより

□北海道支部

支部長 小林 謙 (東海大学)

今回はありません。

□東北支部

支部長 若井正一 (日本大学)

東北各地は、3.11東日本大震災から約1年半が経ち、少しずつですが、復旧・復興に向けて歩み始めています。全国各地からの様々なご支援に、厚く御礼申し上げます。遅れていた平成23年度東北支部総会は、東北芸術工科大学 (山形市) において、下記の通り開催されました。なお、平成24年度総会と諸事業は、年度内に開催する予定です。また、東北支部の事務局は、昨年度より日大工学部から東北芸術工科大学の早野由美恵先生の研究室に移設いたしました (Tel 023-627-2264)。

・平成23年度 日本インテリア学会東北支部「総会」

日 時：平成24年5月28日 (月) 午後2時～

場 所：東北芸術工科大学本館402教室

参加者25名

・東北支部事業「第7回研究報告会」

日 時：平成24年5月28日 (月) 午後2時30分～

場 所：東北芸術工科大学本館402教室

参加者30名

1. 原発事故による放射能汚染と屋内子ども遊び場に関する一考察

ー F県K市に立地するPK施設の事例ー

○高森留珠 (日本大学大学院)

2. 子どもたちのパレット (設計作品)

ー夢を育む総合芸術学校の提案ー

○阿部 圭 (日本大学大学院)

3. 野彩光場 (設計作品)

ー銀座産直野菜プロジェクトー

○永沢公規 (日本大学大学院)

4. 中国におけるユニバーサルデザインの構築に関する基礎的研究

ー安徽省宣城市をモデルとした

UDガイドラインの試案ー

○余 恋旖 (日本大学大学院)

・東北支部「懇親交流会」参加者30名

日 時：平成24年5月28日 (月) 午後4時～

場 所：東北芸術工科大学 カフェテリア

これまで、本会の大会が東北地区で開催されたのは、

第5回大会の日本大学工学部（郡山市）と第14回大会の東北芸術工科大学（山形市）でした。本年度の大会は、仙台市の東北文化学園大学ですが、復興著しい「杜の都」において、多くの会員諸氏と交流ができることを心待ちにしております。

□北陸支部

支部長 棒田邦夫（金沢学院大学）

今回はありません。

□関東支部

支部長 山田智稔（前相模女子大学）

今回はありません。

□東海支部

支部長 建部謙治（愛知工業大学）

7月16日（月）名古屋市内のノリタケの森 森村・大倉記念館多目的ホールにて支部総会を開催した。平成23年度事業報告・収支決算報告、平成24年度事業計画・収支予算を審議し、原案通り了承された。引き続き、ノリタケの本社ビルを設計した鈴木禎次氏について、名古屋工業大学大学院教授の河田克博氏によるミニレクチャーがあり、本社ビルや旧製土工場などの見学会を行った。鈴木禎次氏は名古屋高等工業学校（名古屋工業大学の前身）建築学科最初の教授で、数多くの建築家を養成し、鈴木自ら近代建築を生み出している。なお、ノリタケの森は、日本が誇る食器ブランドをもつ株式会社ノリタケカンパニーリミテドが、産業観光の促進、環境への寄与と地域社会への感謝を形にするため公園、レストラン、ミュージアムなどで都会の中の憩いの場を提供する複合施設である。

さて、平成22年度は東海支部開設20周年の節目に当たった。そこで記念事業として中国上海・蘇州の庭園建築の視察旅行を実施したが、2年遅れで記念誌を発行した。東海支部会員には全員配布するとともに、本部に対しても50部を寄贈した。今後記念誌を希望される方には500円で配布したい。

今年4月に実施したインテリア6団体で構成する連絡会による第10回リレーセミナーは、垂見和彦氏をお迎えし、「クリエイター・デザイナーの視点と線」をテーマに講演していただいた。デザイナーが普段に何を考え、何を見てアイデアのソースとして捉えているのか、どのように様々な人とモノに関わりながら作品に仕立て上げて行きプロジェクトに繋がっていくのかを若い人や学生に向けて語っていただいた。垂水氏は名古屋でのウエ

ディングレストラン「葵モノリス」をスタートに、建築からインテリア・家具デザインなど精力的に活動されている。参加者は約120名であった。



20周年記念誌



ノリタケの森見学会

□関西支部

支部長 小宮容一（芦屋大学）

2012年3月17日に、大阪淀屋橋界限「淀屋橋WEST」の企画者・仕掛人の(株)ケイオス／澤田充社長の講演会と見学会そして懇親会を開催しました。今回初めての試みで関西インテリアプランナー協会との共催としました。参加者46名で、集客の面で成功したと思います。講演内容では、オフィスビルの1階フロアーのリニューアル手法の話が興味深く、飲食や物販をテナントとして入れる時の个性的組合せ、出入り口や通路の配置などノウハウ盛り沢山の講演でした。その後澤田氏のデザインの物件や、淀屋橋界限の近代洋風建築のリニューアル事例を見学、懇親会場も澤田氏の係わったレストランで賑やかにワインを傾け歓談しました。これら様子の写真は、関西のHPに掲載していますのでそちらをご覧ください。

<http://www.jasis-kansai.jp>

6月30日には、評議委員会・支部総会を芦屋大学大阪キャンパスで開催しました。本部総会の報告の後、平成

23年度事業及び会計報告と平成24年度事業及び予算計画が無事承認されました。本年度の事業計画として講演会と見学会の幾つかの案を討議し、現在、講演会を11月17日（土）に西出先生の紹介で、遠野市の現地に詰めておられる博士院生の富安亮輔氏に震災仮設住宅について話していただく予定にしています。見学会は2013年3月頃の予定で案を練っているところです。

□中国・四国支部

支部長 平田圭子（広島工業大学）

1. 支部総会

平成24年6月9日（土）に支部総会を開催いたしました。昨年度の全国大会の実行委員長の大役もお願いしておりました大森豊裕支部長が、ご退職に伴い支部長を退かれ、支部総会の承認を得て支部長・副支部長・監査等々の新しい支部役員が決まりました。

また、支部のメールアドレスも変更されました。

jasis-cs@cc.it-hiroshima.ac.jp

支部HPも灰山先生から村井先生へ引き継がれました。これからは24年度企画や、村井エッセンスも加わっていく予定です。ぜひご覧ください。

http://space.geocities.jp/interior_cs_shibu/

2. 平成24年度活動方針

平成24年度活動方針は、下記のように予定しています。

●総会時講演会「これからのすまい

～歴史・社会環境・価値観の変遷から～」*

講師：金堀一郎 氏

（株式会社住宅デザイン研究所所長、支部会員）

●ミニレクチャー（学生向け）*

①講演会：橋本和幸 氏（東京芸術大学）

②模型製作：西村正弘 氏（N Design）

●見学会*

上下町古民家見学会

●冊子作成計画「都市のインテリア」

2年計画：昨年度の日本インテリア学会第23回大会を機会に「都市のインテリア」というキーワードで、大会の総まとめを行い、さらに中国・四国支部会員により、深く・広く取り組んで執筆していく予定です。先に中国・四国支部のHPへ順番に投稿し、それを取りまとめて冊子完成へ持っていく予定です。完成のご報告ができるよう頑張ります。

*印は、中国インテリアプランナー協会との共催です。

□九州支部

支部長 湯本長泊（九州大学大学院）

2012年度も引き続き、湯本が会長をしている福岡イン

テリアコーディネーター協会および九州地域協会と連携して、インテリア・建築・都市の文化的側面について、多くの一般市民向けに出前講演とワークショップを計画している。8月18日には先ず親子で紙管イスを造り、インテリアについて考えて戴いた。大変な反響で、大変気を良くしたところである。小学校や小中高大一貫校などにも協力戴いている。現状を考えると、インテリア文化のエンドユーザー教育には、力を入れない訳には行かないのである。



今年度も他のインテリア関係団体と十分連携して活動することとし、九州IC協会協議会主催の『インテリアフェスタ』や、インテリア産業協会主催の『トータルインテリアキャンペーンTIC』にも引き続き協力し、インテリア系の異業種交流会や講演会も開催する予定である。JR九州会長の石原進氏に戴いた講演には、多方面から延べ300名近い参加（ライブ会場は100名）があった。また九州IC協会協議会から、全国協会を設立する動きがあるので、九州支部として相応の応援をしているところである。



なかなか単独の活動を展開できないが、多方面での連携を活かして活動して行きたい。

■研究部会だより

□歴史部会

幹事 河田克博（名古屋工大）

今回はありません。

□計画・デザイン部会

部会長 栗山正也（KDアトリエ）

今回はありません。

□人間工学部会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

昨年は計画のお知らせをしたのみで実施できませんでしたが、今年度は研究会と見学会を開催しようと計画しています。

研究会では、住宅内での人の活動量について検討してみたいと考えています。これから、講演者との交渉を行って行く予定です。

また、見学会では企業のショールームを考えており、できれば関西以西で開催したいと考えております。関西以西の会員の方に参加して頂ければと考えています。

研究会ならびに見学会とも日程は未定ですが、決まり次第お知らせいたしますので、ご参加よろしく願いたします。

なお、部会のメンバーを募集しております。ぜひ、ご参加いただき、新しい考えを入れて頂ければと考えています。よろしくお願いいたします。

□教育部会

部会長 河村容治（東京都市大学）

第19回卒業作品展開催決定

2012年10月27日（土）・28日（日）東北文化学園大学 1号館2階レクリエーション室Ⅱにて第19回卒業作品展の開催が決定され、東北文化学園大学とともに準備を進めております。現在のところ、26の教育機関（大学21・短大1・専門学校2・高校2）がエントリーしております。出品登録の締切りは9月3日（月）です。新たに参加を検討されている方は、河村まで連絡ください。（kawayoji@tcu.ac.jp）

□CAD部会

部会長 川島平七郎（元東横学園短期大学）

今回はありません。

□インテリア学大系

委員長 湯本長伯（九州大学大学院）

大系特別委員会は、2011年度末に大きな活動転換を決定した。経緯は以下の通り。

1. 内容を検討しつつ議論を重ね、数10回の会合を重ねて来た第一次検討活動は、結論として魅力的な出版計画としてまとめられ、会報やシンポジウムでも発表した。その計画に関心を示す出版社がなく、終にこの形での出版を断念した。
2. 2011年度に、学会の出版計画を出版社に受け入れて貰うことは構造的に無理があると考え、これまでの出版計画を一旦断念し、今後はインテリアの本質に関する記述は守りながら、我が国インテリアの特徴的成り立ち（黎明期の歴史）等も含めて読者が興味を持って読めるような形式の出版計画に転換することとし、その主要な執筆者（ヒアリングにより原稿を起こし、その編集という形で最終原稿を得る予定）である松本哲夫、栗山正也両氏の賛同を得た。また出来る限り小原二郎氏からもヒアリングさせて戴く計画とした。
3. この形式での我が国インテリアに関する体系的な記述を行うには、残された時間に限りがあると考え、本年度に集中的にヒアリングを行い、出版社とも集中的に交渉と出版に関する共同作業を行う計画である。
4. なお特別委員会として、設置以来かなりの期間を経過しているので、予算等の関係で本年度に活動が行えないようであれば、本（平成24）年度末で特別委員会を解散し、インテリア学会としては「大系出版」を断念したいと考えている。

□東日本大震災課題検討部会

部会長 山田智稔（現所属）

今回はありません。

■ H24年度 理事・評議員会議事録

書記 平田圭子（広島工業大学）

第1回理事・評議員会議事録

日 時：平成24年6月16日（土）11：00～12：20

会 場：千葉工業大学

出席者：【理 事】直井、加藤、西出、上野、川島、河村、
栗山、小宮、白石（光）、鈴木（敏）、
建 部、平 田、棒 田、松 本（直）、
松本（吉）、山田

【評議員】河田（克）、齋藤（裕）、早野

配布資料：

- ①平成24年度日本インテリア学会総会資料
- ②平成24年度日本インテリア学会総会参考資料
- ③理事・評議員会審議・報告事項
- ④日本インテリア学会事務局について
- ⑤平成24年度名誉会員推挙検討資料
- ⑥理事会申し合わせおよび会則抜粋（3ページ）
（名誉会員、退会者の復帰、旅費支給、謝金）
- ⑦日本インテリア学会入退会者名簿（6月12日）
- ⑧「研究協議会」のあり方についての提案（栗山）
- ⑨活動組織における役員について

議 事：

1. 開会宣言（上野）
2. 定足数の確認
 - ・評議員94名（うち理事27名）で、委任状23名（理事4名）、出席者数19名（理事16名）であり、理事・評議員会の成立に必要な定足数を満たしていることが確認された。
3. 会長挨拶（直井会長）

会長より下記について話があった。

 - ・インテリア分野の学術組織として機能をさせる。
 - ・会員へのサービスをきちんとするために体制を立て直す。
 - ・若手を起用していきたい。
4. 配布資料の確認（上野）
5. 第1号議案：平成23年度 事業報告および決算報告（案）の件（上野）
 - ・上野総務委員長より、平成23年度の事業報告および決算報告（案）の説明があった。
 - ・白石総務委員が監事からの監査報告書を代読された。
 - ・2支部分から＜支出の部＞7「支部活動費」が未振

込であることが報告されたが、この件については調査し、平成24年度にて対応することになった。

以上の確認の上、資料の通り承認された。

6. 第2号議案：平成24年度事業計画（案）および予算（案）の件（上野）

- ・上野総務委員長より、平成24年度の事業計画（案）および予算（案）の説明があった。
- ・＜支出の部＞4「通信費」の事務局連絡費（電話費、メールアドレス使用費）が、事務局移転先である千葉工業大学とは別途に設置する必要があったため携帯電話を購入した経由などが説明された。
- ・9「大会準備費」の備考の第23回大会分を第24回大会分に訂正する。

以上の確認の上、資料の通り承認された。

7. その他（上野）

- 1) 平成24年度役員（案）の件：上野総務委員長より、平成24年度役員（案）の説明があった。

- ・中国・四国支部の支部長が平田に変更した。
- ・支部長：ペリー史子（関西）は、小宮容一に訂正する（支部長変更なし）。
- ・栗山理事より、名誉会長の2名が理事に名前が入っているのは事例が少ないとの指摘があり、今後検討することになった。

- 2) 事務局移転による事務局体制について（上野）

- ・事務局連絡先：
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1
千葉工業大学工学部デザイン学科上野研究室気付
日本インテリア学会事務局 担当：押切泰子
（火・金 10：00～16：00）
TEL 080-2386-5952、FAX 047-478-0552
Mail jimukyoku@jasis-interior.jp
（HP <http://www.jasis-interior.jp>）
- ・学会パンフレットについて以前作成されていたが、今後作成を考えたい。

- 3) 顧問の委嘱（上野）

- ・顧問として島崎信氏（武蔵野美術大学名誉教授）への委嘱が報告された。

- 4) 名誉会員の推挙（上野）

- ・日本インテリア学会20周年を機に別紙のように、学会へご尽力いただいた方を推挙したい。
- ・栗山理事より、名誉会員が退会していた場合はどうしたらよいか質問があり、細則を検討することになった。

- 5) 研究協議会規定（案）（栗山）

- ・研究協議会規定（案）の説明があり、今後、申し合わせなどを明確にすることが検討された。

- 6) 特別部会：東日本大震災課題検討部会報告（山田）

- ・平成23年11月5日、11月26日・27日の視察、および

その内容についてはニュースの発行を検討中との報告があった。

- 7) 支部・部会・委員会役員の変更（上野）
 - ・配布資料のように承認された。
- 8) 会員名簿の扱い（上野）
 - ・会員名簿については、データを配布することができるが、扱いを注意願いたい。
- 9) 会費未納者の扱い（上野）
 - ・会費未納者の扱いについては、会長・副会長が検討する。
- 10) 準会員から正会員への会員種別の変更に伴う入会金の扱い（上野）
 - ・準会員から正会員への会員種別の変更に伴う入会金の扱いは、免除扱いとする。
- 11) 会員復帰の件（上野）
 - ・会員復帰を希望する者は、再度入会手続きをする。
- 12) 平成24年度大会開催について（早野）

月 日：10月27日(土)～28日(日)

会 場：東北文化学園大学

多くのご参加を願いたい。
- 13) 支部報告（上野）
 - ・配布資料参照
 - ・東海支部活動報告（建部）

支部創立20周年記念事業にて、「中国 上海・蘇州研修旅行」および冊子発行の報告があった。
- 14) 部会報告
 - ・CAD部会（川島）：CAD部会の今後の活動および活動資金の報告、建築製図法のアンケート依頼があった。

■ H24年度 総会議事録

平田圭子（広島工業大学）

日 時：平成24年 6月16日（土）
13：00～13：40
会 場：千葉工業大学

配布資料：

- ①平成24年度日本インテリア学会総会資料
- ②「日本インテリア学会東海支部 支部の歩み」

議 事：

1. 開会宣言（白石）
2. 会長挨拶（直井会長）

会長より下記について話があった。

 - ・インテリア分野の学術組織として機能をさせる。
 - ・会員へのサービスをきちんとするために体制を立て直す。
 - ・若手を起用していきたい。

3. 定足数の確認（白石）
 - ・正会員数463名のうち、委任状97名、出席者数23名で、総会成立に必要な定足数（正会員463名の1／4以上116名）を満たしていることが確認された。（会則15条）
4. 議長団の選出（白石）
 - ・議長：棒田、書記：平田、議事録署名人：小宮、鈴木（敏）が選出された。
5. 第1号議案：平成23年度 事業報告および決算報告（案）の件（上野）
 - ・上野総務委員長より、平成23年度の事業報告および決算報告（案）の説明がなされた。
 - ・白石総務委員が監事からの監査報告書を代読し、平成23年度の決算報告（案）について、資料の通り異議なく承認された。
6. 第2号議案：平成24年度事業計画(案)および予算(案)の件（上野）
 - ・上野総務委員長より、平成24年度の事業計画（案）および予算（案）の説明があり、資料の通り挙手多数によって承認された。
7. その他（上野）
 - 1) 平成24年度役員（案）：中国・四国支部の支部長が平田圭子氏に変更された。
 - 2) 平成24年度組織（案）：顧問として島崎信氏（武蔵野美術大学名誉教授）への委嘱が報告された。
 - 3) 特別部会について：東日本大震災課題検討部会報告（山田）平成23年11月5日、11月26日・27日の視察、およびその内容についてはニュースの発行を検討中との報告があった。
 - 4) 東海支部活動報告（建部）：支部創立20周年記念事業にて、「中国 上海・蘇州研旅行」および冊子発行の報告があった。
 - 5) 平成24年度大会開催について（早野）：

月 日：10月27日(土)～28日(日)

会 場：東北文化学園大学

多くのご参加を願いたい。

以上

■ 事務局より

平成24年4月より、日本インテリア学会事務局を東京大学西出研究室から千葉工業大学上野研究室に移転した。事務局には、押切泰子氏（元千葉工業大学学生課課長）の協力を得ることができ、会員サービスを実践すべく新事務局がスタートした。事務局の対応役として、総務担当の白石、松崎、上野（何れも千葉工大）の3名が

その役割を担っている。

事務局として早期に実施すべきことは、会員名簿の整備である。会費未納会員への会費納入の督促と現住所の確認など、地道な作業を開始している。また、会員からの問い合わせに対し、早急な対処ができるよう、電話とメールの整備・設置、事務局の定時開設など、事務局体制を築きつつある。事務局として多くの問題をクリアしなければならないが、会員の皆様方のニーズを受け止めながらサービスの向上を心掛ける所存である。皆様方のお声、ならびにご協力をよろしくお願い致します。

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

千葉工業大学工学部デザイン科学科

上野研究室 気付 日本インテリア学会事務局

担当：押切泰子（火・金10：00～16：00）

電話：080-2386-5652

Fax 専用：047-478-0552

メール：jimukyoku@jasis-interior.jp

■連載『インテリアの行方』

～成熟社会におけるインテリア～

加藤 力（宝塚大学大学院）

何もない殺風景なガランドウのインテリア空間に対して、人はなぜ、絵や花を飾ったり、場合によっては壁に色を塗ったり、布をたらしたりと、部屋を飾るのだろう。

あるいは、幾多の椅子やテーブルは市販されているのに、人はなぜ、それほどまでにこだわって自分の気に入った椅子やテーブルを選び・購入して、自分の部屋に置こうとするのだろう。

このような行動をインテリア空間に対して人間がとるのは、「自分の住むインテリアを、誰のものでもない、自分だけの空間にしよう」と、希求するからに他ならない。つまり、自分の住む空間を自分だけの空間として、所有感や一体感を持って暮らしたいと、強く願うからに違いない。このような空間に対する人の現象を“インテリア空間の自己化”と称して、長年にわたり調査研究を行ってきた。

インテリア空間の自己化とは、自分の暮らす空間を、ソコに住まう人だけの空間として、そのことを自分が自覚するだけではなく、周辺にもそれを認めさせて、分からせようと訴求する行為なのである。

ところで、人がインテリアを自分だけの空間とすること、すなわち「空間の自己化」には、どのような意味が込められているのだろう。

人は、自分のためだけのインテリアを自分自身で造っ

て、その中で暮らし、ソコではじめて心からの安らぎを覚え、そして充実感に浸ることができ、自己にも立ち戻ることが出来るのである。

物が豊富な“成熟社会”となった今日、同じような実用価値を持つ物は、数多く市販されている。どれを選んでも良いはずなのに、人は自らの意思や嗜好、あるいはインテリアの専門家に相談して、自分の気に入った物を選び、それを自分の住まいのインテリアに持ち込み使用する。そのようにしないと、人間は満足しない。まさに“そこ”に今日のインテリアの持つ“意味や役割”が潜んでいるのである。

自分の気に入ったモノを選び、それらを自分の部屋に自分が満足するように置いて、「自分だけの特別なインテリア」にしようとする。それは自分のインテリアが、他人のそれとは異なることに意味を見いだしているのだ。すなわち、インテリア空間とは、ソコに住む人にとっては、自分だけの空間であることを現すサイン（表示）として意味を持って成り立っているのである。インテリアは今、実用的価値以上に他者との“差異を示す記号や象徴”を表示する機能と役割を担っているのである。

さてところが、住居のインテリア、特に個室は、その部屋に招き入れられた人ならばともかく、外からはうかがい知れぬ、他人からは見ることの出来ない、外部からは閉ざされた空間である。なぜ、人は閉ざされた空間に対して、ソコが自分の空間であることを他人に知らせるようなことをするのであろう。

住む者にとってインテリアは、常に自分自身の目に直接触れ、自己確認できる対象である。それ故に、部屋の住人は、インテリアを自分の“意志や嗜好”によって自分流に“しつらう”ことができるのである。ところが、そのインテリアに住まう住人は、自分のインテリアであり、自分流に造っているにもかかわらず、どこかで他人を意識し、他者（人）の“まなざし”を感じながら、インテリアを飾り、演出し、自己を表現する。それがまさに「自分のインテリアを他人とは違った自分だけのインテリア」にしようとしていることなのである。

自分のインテリアは、誰にも見られたくない、と同時に、誰かに見て欲しいという、相反する心理がはたらく場でもあるのだ。

すなわち、生活者にとってインテリアは、今、まさに自己表現手段となっているのである。これが成熟社会におけるインテリアなのである。

今日、日本のインテリアの業界は学会も含め、かつての勢いを失い、低迷・閉塞化を余儀なくされている。それは30～40年も前の発展途上段階の日本社会の枠組みの中で対処しているからにすぎない。当然なことである。

～歴史からみたインテリア～

河田克博（名古屋工業大学）

「温故知新」という言葉がある。訓読みすれば「ふるきをたずね、あたらしきをしる」という良く使われる言葉であるが、インテリアの行方を考えるとき、改めて着目すべきキーワードだと思う。会員各位には「釈迦に説法」であろうが、ここで、インテリアを歴史的に概観してみよう。

■洋のインテリア 洋、とくに西洋のインテリアを古いところからみてみると、まずは古代エジプトであろう。カイロの考古博物館には、きわめて偶然に発見されたツタンカーメン王墓の副葬品が数々展示されており、なかでもライオンの足をデザインしたベッドは圧巻である。続く古代ギリシアのインテリアはよくわからないが、その元となったエーゲ海建築のクノッソス宮殿には独特の形状・彩色の柱や、玉座・浴槽などがあり、この古い時代に、よくこんなものが考案されたものと感心する。古代ローマでは、なんとといってもポンペイの遺跡にある諸住宅のインテリアであろう。床のモザイクや壁画にとどまらず、壁画に描かれた室内の様子から、当時豊かなデザインのインテリアが存在したことが偲ばれる。西洋中世初めにおいては、西欧は混沌としており、見るべきインテリアはないが、ビザンチン、イスラムの建築において、のちのち影響を与えるインテリア要素がでてくる。とりわけイスラムのアラベスク文様やスタラクタイト、格子のデザイン、色ガラスは魅力的なインテリアといえよう。色ガラスは、結果的に西欧のゴシック建築以降に発達するステンドグラスを生む源泉となった。そして、西洋の真のインテリア空間といえるものが近世のルネサンスで生まれる。天井の発生とそれに着目した天井のデザイン、緩やかな階段のデザインである。ルネサンスで形成された空間で、床・壁・天井の部位意識が明確となり、その意識は現代のインテリアにも通じている。バロック→ロココと装飾過多になり、その反動としてネオ・クラシシズムなどが出て、さらにこうした歴史主義に反発した近代のモダニズムが生まれるが、室内が床・壁・天井で構成されるという意識の基本は変わらない。後は、そのバリエーションを如何に考えるかであり、空間をずらしたり、大面積となりえることになった光を通すガラスをどう扱うか、といったことに意が払われることになったわけであろう。

■和のインテリア 日本の伝統的住宅では、廊下やホールのような共有動線の意識が乏しく、建物の外回りの「縁（えん）」が廊下の役割を担っていた。各室に固定した名称が付されない場合も多々あり、間仕切りも堅固なものではなく、仕切られた各室の襖をはずせば広間としても使える、といった曖昧な空間意識である。とく

に間仕切りが発達していない平安時代は、寝殿造と呼ぶ、だだっ広い空間で、一つの空間を多目的に使用するために「室礼（しつらい）」が「インテリア」に通じる概念として発達した。室内を任意に仕切るための几帳・屏風・衝立があり、位置が決まっていたものの可動式の簾や壁代が発生した。とくに几帳は、T字形の木材に布を垂らせた軽いもので、布のデザインを変えることにより折々の季節を感じられる優れたインテリア装備といえよう。その後、武家の時代が発達するに連れて、接客空間に、いわゆる座敷飾として床の間や違い棚・付書院が生まれることとなり、天井も発生・発達しデザインに意を払うようになり書院造が確立された。そしてさらに、数寄屋造が生まれるが、その自由で豊かなインテリアは近代和風建築に続くことになった。

■今日のインテリア 現代の日本のインテリアは、多分に西洋の影響を受けている。「西欧に追いつき・追い越せ」といった近代日本政府のスローガンがその一因とも考えられるが、現今、西洋のホテルに泊まっても、日本の現代生活に慣れている我々から見て、殆どカルチャーショックは感じない。「インテリア」という語からして西洋からの産物だから、当たり前現象とも言えようが、畳や障子のない住宅がこうも増えると、日本のインテリア文化は今後どうなるのか一抹の不安を覚える。しかし、近年インテリアの世界にある種の異変が生じているようである。最近何人かの著名なインテリアデザイナーの講演を聞くことがあったが、例えば中国の飲食店のインテリアデザインをしたとき、中国風にデザインするのではなく、日本的な色合いを付けてデザインしたほうが喜ばれるというのである。またあるデザイナーは、「どうしても日本人的な感性が出てしまうが、それがかえって受ける」というのである。

今後のインテリアの行方を考えるとき、私たちは日本の歴史文化を忘れてはならないのだろう、と思考する次第である。それは日本の歴史的インテリアをそのまま使うということではなく、背景にある日本文化のペーソスを応用・考案していくことであろう。いま何故、日本的なインテリアペーソスが喜ばれるのか、インテリア学会としては、そのエビデンスを探求することが一つの課題となろう。



■書評

湯本長伯（広報委員長・九州支部長）

本欄は、広報委員会に寄贈戴いた書籍を会員各位に読んで戴く機会がないので、会報に書評（概要紹介）

を掲載して代えるものです。内容等の照会は、広報委員会までお願いします。

(interior@design.kyushu-u.ac.jp)

□12の祈りの空間—村上晶子 教会への希求

村上晶子著 建築画報社 3,600円



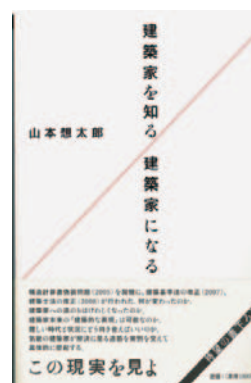
建築家、そして明星大学建築学科教授である著者の、30年近い永きに渡る設計作品、あるいは設計作業をまとめた書である。著者は東京芸術大学建築科を卒業後に、サレジオ学園（サレジオ修道会）の設計に関わり、建築家としてのスタートを切った。叔父である村上康助神父の依頼で、孤児のための生活スペース／大きな家を創りながら、修道会の根幹である小聖堂を、一つ一つ手探りで創り上げることが始まりであった。それは美しいドンボスコ聖堂として結実した。このことが、坂倉建築研究所を経て独立し、現在も建築家として活躍する彼女を、教会建築家として方向づけることになった。

書の前半は池長大司教（大阪）の寄稿を頭に、建築家として独立後に手がけた山口、神戸、浦和、京都、菊名、調布、笹丘（福岡）、山谷（東京）の教会、そして岐部修道院（東京四ツ谷）、最新の東京カルメル会修道院へと続く。すべての紙面構成・レイアウトを自身とアトリエスタッフだけでやったというだけあり、紙面が美しい。後半は坂倉建築研究所時代の作品が、阪田所長（東京事務所／当時）の寄稿を頭に続く。東京サレジオ学園・聖ドンボスコ聖堂、聖イグナチオ麹町教会、鹿児島サビエル記念聖堂である。最後は作品集でなく論考として、山口廣・日大名誉教授の寄稿から始まり、データ分析・考察、そして村上教会建築論で締め括られる。

建築家として一生に一度で良いから、心の建築である教会を設計してみたいというのは、多くの人が考えることである。しかし彼女は四半世紀超の間に、20を超える聖堂の設計に関わった稀有の建築家であり、そもそも教会設計が1年や2年で結実するものではなく、時にはあっという間に10年くらい経ってしまうことを知れば、このキャリアはタダ者ではない。余り知られていない教会建築設計の実態についても、良く分かる書である。

□建築家を知る 建築家になる

山本想太郎著 王国社 2,000円



主に若い人に向けて書かれた、建築家になるためのガイドブック？のようなのだが、むしろこうした書の存在自体が意味深い。そもそもなぜ建築職ではなく、建築家なのか？背景には業としての建築の、大きな時代変化があるだろう。職を成立させる建築業務は、急速に減少して行くことは間違いない。特に先進国では、蓄積された膨大なストックと人口減少の2要因が、恐ろしい速度でそれを進める。既に住宅戸数が世帯数を上回って久しく、世帯の単身化も4割5割と進めば世帯数の増加も減少し、人口減少に相関して空間需要が減って行く。建築都市インテリアが夢の職業であった時代は遠退き、厳しい氷河期が続く。まさか全球凍結にまでは至らないと思っても、空間創造に関わる人たちのノ天気振りを見ると、業界としては不安一杯である。

しかしながら建築・インテリアのデザイン／創造に関わるほうの仕事は、世界的にも衰えることを知らない。また世界的なデザインコンペで、日本建築家の勝率は高い。地道で真面目に建築・インテリアを考えて来た団塊世代以前の人には理解し難い若い人たちの建築家への憧れも含めて、提案的な空間創造について考え直せる書であり、勿論若い人たちには、知りたいことが書いてある書（のよう）である。

□著書紹介について

広報委員会に編著者から著書を戴いた場合、本学会員に紹介するため、書評という形で掲載させて戴きます。近年に著作を刊行されて、本学会会員に紹介したいとお考えの方は、一冊ご献本下されば、広報委員会で対応させていただきます。

※関連して、これは良い本なので紹介したいと書評を投稿される（著者ではない）場合は、『会員投稿』としてお寄せ下さい。広報委員会にて内容を確認の上、積極的に掲載させていただきます。

■ 編集後記

編集委員 片山勢津子

総会後の会報50号をお届け致します。発行が遅くなりお詫び申し上げます。また、慣れない編集作業にもかかわらず、お忙しい中、快くご寄稿いただきました会員の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回、50号と言う節目を迎えるに当たって、過去の会報を、HP掲載分のみですけれども眺めてみました。

2000年頃は、国際シンポジウムへの参加や大会における設計・デザイン部門の設置、そしてHP開設など、学会活動の活性化のための新たな取り組みが、紙面から見られました。しかし暫くすると、活動の閉塞感とともに紙面のマンネリ化が窺えるようになり、新しい試み『インテリアの行方』に象徴されるように、活動の模索が今日へと至っています。

会報は、学会活性化のための情報の場ですが、デジタルの時代にあって、その意味を問われているようにも思われます。新たな方向性を見つけるにあたり、アイデアやご意見がありましたら、編集委員までお知らせ下さい。

編集委員 湯本長伯

新編集委員に、松田奈緒子委員を迎えての会報50号です。と言っても、片山委員に奮闘して戴くこと大でしたが、これか

らは是非とも積極的に意見を出して戴き、多くの会報が電子発行になっている現代、事実の報告・記録ばかりでなく、片山委員の提議の如く、活性化のための情報交換をどうするか?一度、研究会を開催する必要がある今日この頃です。

編集委員 松田奈緒子

今回、編集作業を垣間拝見して、毎号紙面から感じられる温かさは、地道な手作業の賜物と知りました。同時に、50号に至るまでの道のりの重みを感じ、身の引き締まる思いです。今後の活動に、少しでも貢献できることを願っております。

■日本インテリア学会会報第50号（2012. 8. 27発行）

編集者：片山勢津子、松田奈緒子、湯本長伯

発行者：直井英雄（日本インテリア学会長）

広報委員会：湯本長伯、片山勢津子、平井康之、
平田圭子、松田奈緒子、若井正一、
渡辺秀俊

interior@design.kyushu-u.ac.jp

■事務局

日本インテリア学会 事務局 押切泰子

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

千葉工業大学 上野研究室気付

電話：080-2386-5652 FAX：047-478-0552

e-mail：jimukyoku@jasis-interior.jp